

平成 28 年 5 月 20 日に文教福祉委員会を開催し、所管する事務事業の調査を次のとおり行いました。

● 昭和地区英語特区にかかる登校園支援について ●

～内容～

スクールバス廃止後、総社駅から電車で昭和地区英語特区に登校園する園児、児童に対して行っている、登校園の支援状況について調査するもの。

～質疑～

問：ホームと電車の段差等が非常に厳しく、ましてラッシュ時の乗り降りは、幼稚園児には非常に厳しい状況である。支援員 2 名で安全性は確保されているか。

答：当初は、安全性が一番確保されやすい 1 両目に乗っていたが、ラッシュ時は車掌がいる 6 両目から非常に見づらいということもあり、現在は 4 両目に変更している。また、保護者も当番制でホームにおいて支援を行っており、今現在はうまくいっていると思っている。今後も保護者と話し、JRにも協力をいただきながら、状況に応じて対応していきたい。

● 旧昭和児童館の施設について ●

～内容～

旧昭和児童館に施設の現状及び旧昭和児童館において実施している事業について調査するもの。

～質疑～

問：実施されている事業は、昭和地区の子どもの支援に貢献している。施設の在り方についてビジョンを立てるべきではないか。

答：今年度、公共施設等の総合管理計画を策定する予定であり、市全体の中で公共施設の整理、見直しを行い、既存施設の長寿命化、再編と計画的に行っていく。

問：遊びを通じて人間育成をしたいという、実施団体の理念は、保護者に圧倒的に支持されているが、市としてはどのように認識しているか。

答：非常に良い取組を行っていることを認識している。事業が多岐にわたるため、市として

は、関係課を集め補助事業を含め事業内容を精査しており、今後この施設も含めて、子ども関係の施設をどう維持運営していくか、修繕や建て替えを含めて検討していきたい。

問：昭和地区への定住、移住を考え英語特区も取り組んでいる中で、昭和地区の中で最重要施設だと思う。昭和地区の定住等を本当に取り組む姿勢があるのであれば、この施設については早急に手を打つべきではないか。

答：老朽化しているのは重々承知している。将来的なことについては、できるだけ早く長期的なビジョンを立てて検討していきたい。

● 生涯現役促進地域連携事業について ●

～内容～

全国屈指の福祉先駆都市実現に向けた具体的メニューの一つでもある高齢者雇用のワンストップ窓口を 10 月から実施することについて調査するもの。

～質疑～

問：この事業の最終目標は何か。

答：高齢者の雇用だけに限らず、高齢者の方が地域で生きがいを持って地域の役に立ちたいとか、それぞれの高齢者のニーズに合った形でできるだけ現役で活躍していただくという元気、活力のある社会を作っていくことを目的としている。

● 民間保育所設置運営事業者の決定について ●

～内容～

待機児童解消に向けた民間保育所新設について、次のとおり報告を受けました。

1. 設置運営事業者 社会福祉法人 経山会
2. 施設の建設予定地 総社市井手地内
3. 施設の定員 90 名
4. 施設の開所年月日 平成 29 年 4 月 1 日予定